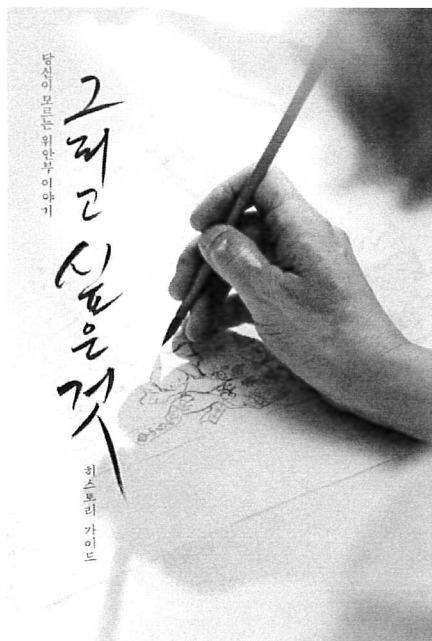


wam de video 2018 「絵本で伝える戦争と暴力」4.28 シンポジウム関連企画



『わたしの描きたいこと』

(監督：クオン・ヒョ／93分／韓国／2016年)

2018年4月、日本軍「慰安婦」をテーマにした『花ばあば』の日本語訳が出版されます。作家であるクオン・ユンドクさんがこの絵本を創作する過程を追ったドキュメンタリー映画を、wam では全編上映することにしました。

映像には、モデルとなったシム・ダリョンさんと作家との交流、絵本が出来上がったときのハルモニの喜びも描かれています。シム・ダリョンさんにとって、自分の被害を元にした絵本はどういう意味をもったのでしょうか？ 大邱に住むシム・ダリョンさんを支えた「市民の会」で、1990年代から活動してきたリ・リョンギョンさんをトークゲストに迎えます。

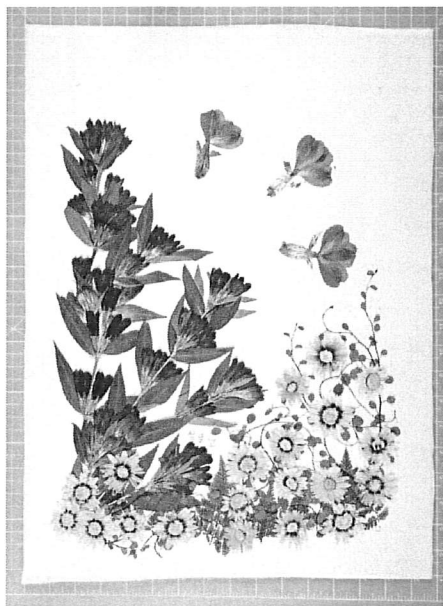
日時：2018年5月12日(土) 18:00～20:20頃まで

場所：wam オープンスペース 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 AVACO ビル 2F wam 内

参加費：800円

トーク：リ・リョンギョン (「ハルモニと共にする市民の会」メンバー、立教大学非常勤講師)

お問合せ：アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(wam) TEL:03-3202-4633



1927年に韓国慶尚北道に生まれたシム・ダリョンさんは、13歳か14歳の頃、お姉さんと一緒に野草を摘んでいたとき、無理やり車に乗せられて慰安所へ連れていかれました。シムさんは、お姉さんの髪を引っ張られたこと、自分が蹴られたり殴られたりした場面、下腹部から血が流れていた痛みなど、暴力の記憶は鮮明です。一方で、川を渡ったことや島だったなどの記憶はあるものの、自分がどこに連れていかれたのかは覚えていません。

絵本作家のクォン・ユンドクさんは、大邱に住んでいたシム・ダリョンさんが語った言葉にインスピレーションを得ながら、「慰安婦」をテーマにした平和絵本を創作しました。2007年に描き始め、日中韓の絵本作家仲間と議論して何度も何度も書き直しながら、美しい『花ばあば』をつくりあげました。



シム・ダリョンさん。たくさん美しい押花を制作した。2010年12月死去。



4月発売予定！ できたてホヤホヤの『花ばあば』（作：クォン・ユンドク、訳：桑畑優香、出版：ころから）を特別割引にて販売します。

定価 1800 円（税込 1940 円）のところ、なんと**税込 1700 円！**

ぜひこのチャンスにお買い求めください。



wam

アクティブ・ミュージアム
わたちの戦争と平和資料館

women's active museum
on war and peace